

いつも、なにか辛い記事を見たとき想像することはあるけど、実際に記事を読んで詳しく知ると改めて、その記事の深刻さやつらさが身にしみて感じると思いました。

アイデア

その会社のラインニュースや、ネットニュースを見たら、ラインポイントゲットできるなどの特典。

今回は斎藤さんのお話を聞いて新しく学ぶことが多くありました。共同新聞という名は聞いたことがありますませんでしたが、地方の新聞やネットニュースにも記事を提供されると聞いて驚きました。質問にも時間がない中で丁寧に答えていただきすごく嬉しかったです。私達がネットにしろ、新聞にしろ記事を読もうと思うきっかけはやはり、見出しと写真だと思います。目をひく見出しや写真があれば、それにつられるよう記事も読んでみようと思えます。

今日の講演会では、愛媛県松山市で生まれた斎藤記者と一緒にNIEの授業を受けました。内容は、新聞以外にインターネットを使いながらニュースに関係する内容の仕方をたくさん見つけたので、自分でも、もっと新聞を読んで詳しく記事の内容を勉強したいです。

斎藤さんの講演会を聞いて思ったことは僕達は情報を得るときにすぐにインターネットなどを使って自分の知りたいことしか調べないのでテレビや新聞など色々な情報を得られるものも使うようにしたいと思いました。更にインターネットだとそれが本当だとは限らないので新聞などの公式に作られたものなどで調べようとも思った。

時々新聞を読むことがあるけど、新聞記者について初めて考えました。何気なく読んでいる記事でも、取材した人や記者にそれぞれ気持ちがあって、私たちに届けられているんだなと思いました。今は、新聞を読む人が少なくなっていて、私もインターネットで読んでいることが多いけど、記者の気持ちなどが直接知れるのは新聞だと感じることができて良かったです。誰かになにかを伝えることは難しいことだけど、面白いことなんだと思います。

インターネットよりも正確でわかりやすい記事のがいいと思う。

今までいろんな方の講演会を聞いてきましたが、自分たちと年齢が近かったので共感する内容が多くかったです。高校で新聞に関する部活に入って、そこから新聞に関する仕事に就くなんて驚きました。同時に、そんなに自分がやっている仕事に誇りを持っているんだなと感じることができました。もっと若い人たちが新聞を読むためのアイデアとして、新聞の白黒をやめてみたらいいのではないかと思いました。小中学生向けの新聞はカラフルなものが多いので、私達が知っている新聞も黑白ではなく色を使ってみたら少しはわかりやすくなりと思っています。

私はあまり新聞記者の仕事のことについて知らなかつたので、今回の講演を聞けてとてもよかったです。正直私も、情報を入手する手段としては、インターネットがほとんどです。しかし、斎藤記者の講演を聞き、新聞にもいいところがたくさんあるんだなと気づきました。私の家は新聞を取つているので、また読んでみたいのです。学校に新聞のことについて取り入れたら、みんなが新聞を読むと思います。私達は、授業で新聞のことを学ぶことで、新しい単語を学べたり、自分の意見をしつかり考えたりしているので、それらを他の学校にも取り入れるべきです。私も、新聞をもっと読んで情報リテラシーを身につけたいです。

斎藤記者 講演 感想

最近の子たちは新聞離れが増えています。僕も実際、家で新聞を取っていません。ですが今回の講演を聞いて自分も新聞を取ってみようかなと思いました。4年もやってると結構大変なことも経験したんだろうなと思うと本当に新聞記者はすごいなと思いました。

斎藤記者の話を聞いて、SNS以外のメディアと関わることが大切だと改めてわかりました。なかなか新聞を読む機会がないけれど、今回の講演を聞いて新聞を読みたいと思いました。共同通信というものを初めて知りました。神戸新聞や朝日新聞などしか知らなかつたので、共同通信というのを知ることができて良かったです。

斎藤記者講演会振り返り

共同通信社という存在を今回初めて知って神戸新聞等の固定されたものではないことに驚きを感じました。対面での取材の難しいコロナ禍すぐの時の大変さを感じました。

読んでもらう提案

今流行の物のネタなどを含むことで○○のことが書いてあるから読もうと興味を持ってもらうことが出来ると思います。

斎藤記者講演会 感想

家でも新聞を購読しなくなり、学校でしか新聞を読む機会がなくなりました。ですが、今回講演会を聞いて、新聞の細かいところにも記者が考えて書いた記事があるんだと気づきました。そして、新聞を若者に広めるにはトレンドの部分を入れてみたり、見栄えの良い写真をさらに増やすことがいいなと考えました。記者は、他の人よりも情報がより深く知れたり、取材しないと体験できないようなことができますが、その裏で何時間も取材したり、初対面の人人に聞きにくい内容を聞いたりと大変な面も多いと知りました。そんな中でも、毎日取材をし、記事を書いて私たちに伝える新聞記者は必要不可欠な存在だと改めて感じました。

斎藤記者の公演を聞いて、一番にすごいと思ったのは、対面して取材するとき、話している言葉だけでなく、目線や手、足の動きなども観察して、相手の気持ちを感じていることです。そして、質問する内容だけでなく、相手の性格や、どんな人なのかも事前に調べて準備していることに驚きました。知らない人にとてもきついことを聞かないといけない仕事でもあるので、できるだけ相手が不快にならないようになど、気を使っているということがわかりました。普段授業でしか見ない新聞、時々目にするネットニュースに斎藤さんの記事が乗っているかもと考えると、手にとって読みたくなりました。

読みやすいけど偽物の情報が混じってる可能性の多いネット記事、文字が小さくて読みにくいけど信頼感のある新聞、多様なメディアを使うことで、自分にあうメディアを見つけたいと思いました。

感想

記事をただ完成させればいいのではなく、その記事を作るための取材の姿勢や取り組みを大事にしていることを知り素敵だなと思いました。相手のことをちゃんと知ってから取材するところが特に凄いです。また、質問の回答で斎藤さんが、「人の目を見て話せないけど仕事では～～...。」と話していたことが心に響きました。相手に失礼になるから仕事ではちゃんと目を見て取材したり、目以外の手や足の動きを見て取材していると知り、私も当たり前のことはちゃんとしようと思えました。受験で面接を控えているので、目を見て話せるようにしていきたいです。

【読んでみたい新聞記事】

- ・ ゲームの紹介記事
- ・ 歌手などへのインタビュー

テレビで歌っているアーティスト以外にもYouTubeで主に活動している「歌い手」などの特集記事もいいなと思います

私はまだやりたいことが決まっていなくて、将来のことがよくわかりません。でも斎藤さんのように、高校でやりたいことを見つけて頑張りたいです。新聞記者はどんなときも新聞のために、動いて身を削らなければいけない仕事で、私には真似できないくらい大変だと思います。それに取材相手が嫌だと感じることも、聞かなければいけないなんてしんどいと思います。こんな素晴らしい仕事をしている斎藤さんはすごいです。今、ネットが発達して新聞に手は出しにくく感じるます。新聞を取っていない家なら尚更、手を出しづらいはずです。若者ならみんな持っているスマホで、新聞の無料配布をしてみたらいいと思います。それが私たちがやっているように国語で新聞の時間をとるのがいいと思います。最初は少しめんどくさくてもやっていくとだんだん楽しくなります。みんながそう思うのは中々難しいと思いますが、やって損はないです！これから、全国紙以外も読みます。今日はありがとうございました。

お話を聞いて、新聞記者のことについて更に知ることができた。えひめ丸の事件について何も知らない状況でも、詳しく教えていただきありがとうございます。オンラインと実際に行くことの違いにも理解をしました。記者は色々な場所へ行き、なかなか来れない場所も行くことができるので、働くとしたら景色を見ることができ、僕がもし記者になったとたらそういうことをしたいと思いました。斎藤記者の言っていたことが起こるかもしれないのに、将来こんなことを言っていたなと思えるような内容で記者について更に知ることができました。これからも記者として頑張ってください。今回は本当にありがとうございました。

斎藤記者 公演 感想

今回は斎藤さんの話を聞いて様々なことを学べました。特に今回の公演で印象に残っている話は、記事を取材することについての話です。たったひとつの記事をつくるのにも、これであつたいるのか確認したり、事件とかがあつたときの心情を聞きに行ったりなど、様々な人のもとへ行かないといけないことを知ってとても驚きました。今回の公演で新聞記者の大変さや大変だからこそ記事ができたときの達成感がすさまじいのだろうなと考える良いきっかけになった良かったです。記事をもっと沢山の人に読んでもらうには文字ばかりだと読む意欲がなくなるので絵や写真をたくさんつかえばいいと思います。

斎藤記者 感想

私は、たまに新聞を手に取ることがあるけれど、文字が小さくてあまり読む気にならないけれど私はスポーツが好きなので文字が小さくても読もうと思えます。写真が2，3枚あったらもっといいと思いました。文字が小さいということは伝えたいことがたくさんあるのかと思いました。

新聞を作るのに自転車で走り回っているということを聞いて体力がいるのですごい大変なんだと分かりました。1面を作るだけでもものすごい苦労があるということが初めてしれたので良かったです。

取材をするときにはしっかりと準備をすることが大切と言つていて、どんな事をするときにも準備をすることが必要なんだとわかりました。これから受験があるので私もしっかりと準備をしないといけないと、改めて思いました。

斎藤記者の講演を聞いて、秋田県から愛媛県に移動したり、取材に行く警察署から警察署までの距離が15キロで、それを自転車で移動したりと、大変なのは取材をするときだけじゃなくて、移動のときもあると知れたので、前よりも記者の方の大変さがわかったと思います。

私達が新聞を読まないのは、SNSという若者に一番身近なところから情報をえることができるからだと思います。なのでどうやつたらみんなが新聞に興味が湧くかは正直わからないけど、自分だったら、写真やイラストが多かったら興味お持つことが多いので、写真と文字で伝えるんじゃなくて、イラストを用いたりして、漫画みたいなちょっと面白おかしくしている要素を知れてくれたら興味が湧くんじゃないかなと思います。

斎藤記者講演感想

今回の講演では、現代社会の凄さがわかりました。なぜなら、「電車に乗っていただけで足がなくなる」という記事で、両足がなくなっているのにも関わらず、「充実した日々を送っている」と書かれていたからです。これは、足の障害を持っている人でも、一般人と同じような生活が送れているということなので、現代社会のバリアフリー化が進んだということに繋がります。こういったことを、僕は今まで知りもしなかったけど、今回、共同通信新聞社の新聞のおかげで知ることができました。このように、スマホだけでは調べることのできない情報も新聞には載っているので、これからは新聞も活用していくと思いました。あと、新聞自体を小さくして、子供でも持ちやすいようにすれば良いと思います。

感想

記者になって秋田から神戸まで来たり、現地まで何キ口も自転車をこいだりとても大変だなと思いました。私も人の目を見て話すということが苦手で普段は合わせずに喋ることが多いのですが新聞を書くために苦手でも目を見て取材をすることが素晴らしいなと思いました。裁判に行かないと聞けないことがあると言っていたように新聞に書いてあることだけを事実だと勘違いせずその背景にどのようなことがあるかと考えてみることも大切だと思いました。

意見

私は新聞を見るとき全体的に硬いように思い読みにくいくらい感じます。自体を変えたりすることは無理かもしれませんのが印象が柔らかくなれば手に取りやすいのかなと思います。

斎藤記者感想

今回の公演を聞いて、まず私達と年齢の近い記者の方がいるのをしってびっくりしました。私は共同通信というところがあるのを初めて知って、それも新聞紙一面を埋める仕事ではなく一つの記事を複数のところに渡すというのを新しくしれてよかったです。新聞だけでなく、Yahooなど、ネットにも載せていると聞いてとてもびっくりしました。他にも、対面で取材するだけでなく、コロナの時期になってからオンラインでの取材もあると聞いて取材の仕方も時代に合わせて変わっていているんだなと思いました。取材方法が変わっていく中でのメリットやデメリットも聞けてよかったです。前までは新聞 자체に興味がなかったので記者自体にもあまり興味がわかなかったけど、今回共同通信というところを知って、前よりも興味がわきました。最後の質問では、記者としてだけでなくプライベートや自分の気持ちなども含めて話して頂いたので想像しやすく、楽しいなと思いました。私自身ニュースに興味がないけど、興味を持つきっかけになったりするのは自分の好きなアイドルなどに関連するものだと見ていて、それをうまく使えばニュースも若い世代で見られるかなと思いました。

感想

斎藤記者が顔も知らない人に、一番辛いことを聞かなければならぬことがとてもつらいと言っていて、記者はどこか地味なイメージ持ってしまっているけど、とてもしんどい仕事だなと思った。それを若いときから4年も続いている斎藤さんはすごいと思った。しんどい仕事だと思ったけど、同時に、今日新聞記者のやりがいや楽しさも知れたので、いい仕事とも思った。僕も、自分にあったいい仕事を見つけて、将来斎藤記者のように楽しみながら仕事をしようと思う。いつも、新聞は家でとっていないので読まないけど、Yahooの4行の記事などは意識して読むようにしようと思った。最近のニュースなどはあまり知らないほうだと思うから、今日の講演会を機に、最近のニュースや話題のものについて詳しく知ろうと思う。

記者は、心が痛い時も頑張ってがんばって取材したり人が悲しんでいる時もやらないといけないのが辛いと思いました。新聞や、ネット、テレビなど様々なことを記事にしているのがすごかったです。

今日は忙しい仲おこしくださってありがとうございました。新聞のことは中学校三年間の中で色々きいてきたけど、あんなにも主観的に話してもらったのは初めてでした。すごく面白かったです。質問コーナーで私が聞きたかったことが、だいたい聞くことができたので良かったです。新聞について関心が持てました。今回のNIEはスライドも見やすく、さいとうさんの話し方も上手であつという間に時間が過ぎました。すごくいい機会だったので、またいつかできたらいいなと思いました。

講演会の振り返り

今日の振り返りは、まず共同通信というものがあったというのが初めてのしりました。

そして、自分の家では新聞を多分毎日取っているのでいつもは新聞ではなくインターネットでみているけど、明日から少しづつみていこうとおもいました。

そして、若者が新聞を見るためには、最近の若者の流行りのを入れたほうがいいとおもいました。

斎藤記者講演 感想

学校新聞をきっかけに記者になるのを実現させるのはすごいなと思いました。地元から離れて知らない土地に行くのはとても勇気のことだし私だったら不安でしかたないと思います。それを楽しみにして今の仕事をしているのはかっこいいです。

今回のお話にあったえひめ丸事件が20年ほど前に起きていたことは知らなかったけれど、自分の子供が亡くなってしまった方に取材するのは電話越しじゃ、相手の気持ちや表情を見ることができないので大変だったんだろうなと感じました。

斎藤記者と同じように私も目を見ながら喋るのは苦手だけど目を見て喋ったほうがいいなと改めて気がつきました。

私がインターネットでニュースを見る理由は「カラーで見れる」からなので、新聞にカラーの記事が増えると新聞を見る人が多くなるんじゃないかなと私は考えました。

斎藤記者講演会感想

今回斎藤記者の講演を聞いて、若者の新聞離れについて再認識させられた。僕も最近は情報を得る手段は、テレビのワイドナショーやYoutube、LINEニュースで紙面と触れ合う機会はまず無い。だからこそ共同通信のような紙面を持たずして、記事をネットに